



”叱る”と”怒る”の違い



●叱る…相手のことを思い、間違いを正すために指導すること

●怒る…感情をあわらにし、イラ立ちをぶつけること



「何度叱っても伝わらない」という原因は、叱っているのではなく怒っているからかも？！

<叱るべき状況とは？>

1. 安全に関わる時

子ども自信の安全だけでなく、周りの人の安全に関わる時も毅然とした態度で叱らなければなりません。正しく叱り、子どもの危機管理能力を高めましょう！！

2. 他人を傷付ける行為をした時

人を傷付ける行為も”絶対にしてはいけないこと”としてきちんと叱る必要があります。身体的なものだけでなく、心を傷つける暴言を吐くことも許されません。暴力や暴言から得られるメリットは何一つないことを伝えましょう。

3. 社会のルールに反する時

子どもが間違っただけをした時に誰かが叱らなければ、悪いことだと知らずに育ってしまいます。お母さんに叱られることで子どもは社会のルールを学んでいくので、叱ることは子どもの将来を守ることに繋がります。



人格を否定する

「バカだね。」「ダメな子だね。」などと人格を否定されている子どもは、自分の存在価値がわからなくなり、自信を失ってしまいます。子どもの心を傷つける行為はやめましょう！！

！逆効果！

やってはいけない叱り方！

感情的になって怒鳴る

怒鳴るというのは、恐怖心を与えることによって子どもから考える時間を奪い、大人のを押し付けているのと同じことです。怒鳴られると子どもは『してはいけないこと』の理由がわからないまま萎縮してしまいます。

手をあげる

子どもを叱るうえで、叩くことは許されません。手をあげることは暴力であり虐待になります。子どもに恐怖感を与え、支配することは叱るとは言えません。

他の子と比べて叱る

子どもは比べられて否定されると、人よりも劣っていると自信をなくしてしまいます。

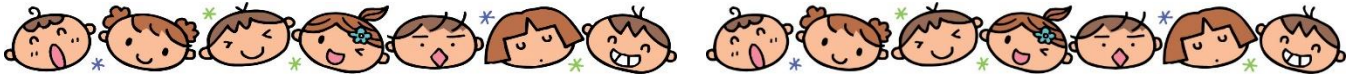
自尊感情や自己肯定感が育ちにくくなることも。

何度も同じことを言う

いつまでもしつこく言い続けても、子どもの耳には入りません。なるべくわかりやすい言葉で短く叱る方が子どもには伝わりますよ。



上手な叱り方



◎子どもの目を見る

- ・しゃがんで子どもと同じ目線の高さにする
- ・目をしっかりと見つめて話す

子どもと向き合わなければ、お母さんの伝えたいことを理解させるのは難しくなります。家事をしながらや携帯をいじりながら叱っても、子どもには伝わりません。

◎叱る理由を説明する

- ・×「～しちゃダメ！！」
- ・○「～すると〇〇になるからダメだよ！」

何も言わずに頭ごなしに叱ってしまうと子どもは反抗的になり、聞く耳を持ってくれないことも。納得したことなら言いつけを守って行動してくれますよ！

◎子どもの気持ちを肯定してから叱る

- ・「～したかったんだね。でも、～すると〇〇になっちゃうから止めようね。」

一度子どもの気持ちを肯定してから叱ると伝わりやすいです。理由を聞かずに否定してしまうと、子どもは自信をなくし、消極的な考えになってしまうことも。

◎してほしいことを伝える

- ・×「横断歩道に飛び出さないで！」
- ・○「横断歩道の前で一旦止まって！」

してはいけないことではなく、してほしいことを伝えるようにすると、子どもは自分がどう行動すればいいのかがわかるので、指示に従いやすくなります。具体的にわかりやすい言葉で伝えてあげましょう！

◎改善したらほめる

- ・叱りっぱなしをやめ、叱ったことができるようになったらきちんと褒めてあげる

子どもはお母さんから叱られると、理由はどうあれ悲しい気持ちになります。小さい子どもなら、抱きしめてあげると喜びますよ！子どもは、お母さんから認められること、愛情を実感することで自己肯定感が高まります。

お母さんも間違っただけをしたら

きちんと謝ることが大切！！

子どもへの叱り方を間違えた時はきちんと謝りましょう。子どもも意思を持った1人の人間です。子どもの心をないがしろにせず、向き合うことが大切です。叱り過ぎた時も「〇〇ちゃんのこと大切だから叱ったんだよ。」とフォローしてあげると、子どもの傷ついた心は和らいでいきます。愛情を持って接してあげてくださいね。

